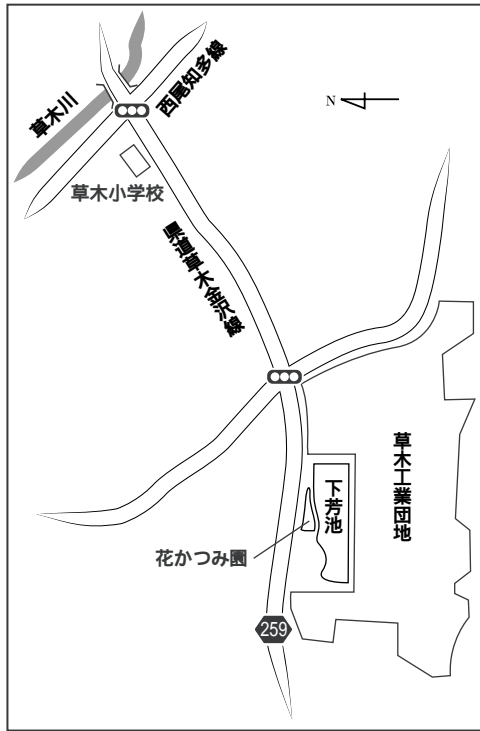


シリーズ

阿久比を歩く ⑤⑤

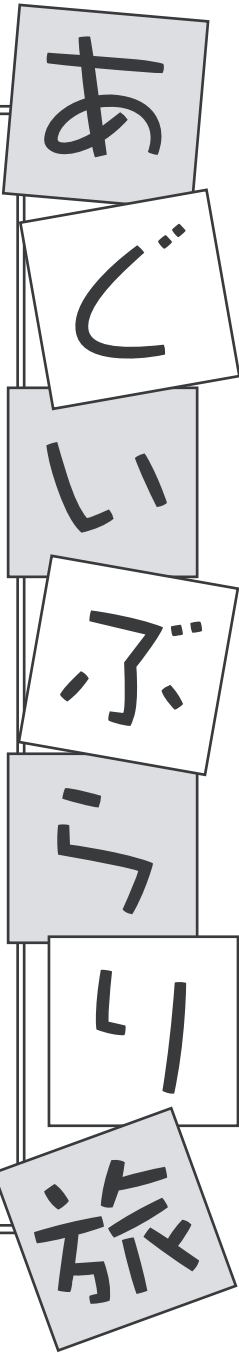


知多市と阿久比町の境界

梅雨入りした最初の日曜日。雨は
一休みといった感じで天気は晴れ。
草木地区で花かつみ園が一般開放
(六月三日〜十七日)されている。
今回は花かつみ園見学を兼ねて、県
道草木金沢線(県道259号線)に
ぶらり旅へ出掛けた。

知多市との境界を出発点として、
東に向かう。稲は株が太くなり色も
濃い緑に成長している。道沿いのピ
ワの木には実がたわわに実り、枝が
垂れ下がっている。少し行くと、自

阿久比の道を行く(県道草木金沢線)



動車部品などを製造している会社の
工場が右手前方に見えてきた。工場
のすぐ前が花かつみ園。道沿いから
園の様子をうかがうことができる。
多くの人が花かつみを観賞している。

初夏の訪れとともに、ノハナシヨ
ウブ(アヤメ科の多年草)の花が咲
く。小ぶりの花で鮮やかな紫色の輝
きは人の目を引く。草木地区では、
昔からこの花を「花かつみ」と呼ぶ。
室町時代に伯耆の国(鳥取県西部)
から下芳池に移植されたと伝えられ、
一時絶滅の危機にあつたが、現在は
「花かつみ保存会」が大事に守って
いる。

友人と二人で花見と決め込む。春
は梅の花、初夏は花かつみ、秋は菊
と阿久比では相場が決まっていますよ
ね」と友人が話し掛けてきたので、
クイズ番組の司会者の真似をして
「そのとおり」と答えを返す。

アメリカ出身の人たちが花かつみ
園を訪れていた。常滑市に在住して
いるという中年の女性が「日本のア
ヤメが大好き。去年初めてここに来

て、素晴らしい花に出会えたので今
年も友人を誘ってきました」と流
ちような日本語で話し掛けてきてく
れる。

日本に来てまだ一年だという若い
女性に「日本語大丈夫ですか」と前
置きしてからオーバーアクションを
交え、花かつみの感想を尋ねると、ハ
ナノイロ ガ トテモ プライ
トネ。オー。花の色が明るいパー
プル。ブライト紫ね。(欧米か?)
日本語と英語が混じり合う会話で
あつたが、彼女は鮮やかな紫色の花
に感動している様子だつた。

県道を東に進む。草木小学校を過
ぎ西尾知多線との交差点で、信号待
ちをしていると、車の中の夫婦から
「名古屋から来たんだけど、花かつ
み園はどこですか」と訪ねられる。
「あちらです」と私たちが歩いて来
た道を説明して、ぶらり旅を終えた。



花かつみを観賞する来園者